

# ライフスタイル賞

ひさの まさてる  
久野 雅照

おきなわけん よ. な. くにちよう  
沖縄県 与那国町



## 講評

1982年に神奈川県より移住。一頭の与那国馬を飼い始め、調教・繁殖を開始、現在では、17頭に増え、在来馬である与那国馬の保存・繁殖・調教・活用を目的とした任意団体「与那国馬ふれあい広場」を運営しており、1994年から那覇の青少年育成団体と提携して与那国馬と触れ合う「冒険学校」の受入れを開始。1999年からは滞在型の牧場体験プログラムを設け、島に住んでみたい若者達への門戸を広げるなど、与那国馬の魅力を島内外に広く伝えることに貢献している。個人のライフスタイルを超えて地域資源の保全に貢献している点が評価された。

与那国馬ふれあい広場（久野 雅照氏活動紹介） <http://www.cosmos.ne.jp/markun/>

## オーライ/ニッポン大賞グランプリ 内閣総理大臣賞

八千代町 兵庫県 八千代町



地域産業が低迷する中で、平成2年から新たな産業として交流産業の創出に着目し、潜在型市民農園（クラインガルテン）や宿泊交流施設、加工体験施設などの整備と併せ、農林業体験ツアー等により神戸市や大阪市などから年間31万人の都市住民を受け入れ、地域の活性化を図っている。町の交流関連施設はすべて集落の運営で維持され、高齢者や女性も含め160人余りの雇用創出に結びついているほか、農林産物の契約栽培やオーナー制度、都市部の小学生による農家民泊ツアーなど多様な取組を展開しており、交流による経済効果は12億円にも達している。

また、神戸市の商店街組合との交流や大阪市へのアンテナショップの出店を行うなど町から都市部への交流も積極的に展開しているほか、空き家情報の提供などにより町外からの移住者も増加している。

このように、潜在型市民農園をはじめとした各種交流関連ビジネス起こしにより、多面的な都市農村交流を展開し、交流人口の増大、定住人口の増加を通じた、地域経済の活性化、地域の所得増大をもたらした点が高く評価された。

## オーライ/ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市側から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等について優れた貢献のあった団体もしくは個人を表彰するもの。

## オーライ/ニッポン大賞

からり直売所運営協議会  
愛媛県 内子町



「からり特産物直売所」は、農業に活気を取り戻そうと、農業者や行政等による検討を重ね、平成8年に会員183人により開設し、現在、390人の農家が運営に携わっている。直売所では、地元の農産物や加工品等の販売のほか、そば打ちやパン作りなどの体験教室や旬の農産物の収穫祭などのイベントを開催し、年間42万人の都市住民等が訪れている。農産物の販売においては、有機農産物等の安全・安心・新鮮さを追求するとともに、町内の病院や学校給食センターへの食材供給、県内外の料亭や消費者への宅配も行っている。

このような取組により、農産物等の販売額は4億円を超え、農家所得の向上とともに、町の経済発展に大きく貢献している点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞

日本生活協同組合連合会  
東京都 渋谷区



本連合会では、都市住民（生活組合員）が自然豊かな農山漁村に出かけ、都会ではできない自然体験や農業体験を家族みんなで楽しみながら、自然と農村を理解してもらおうことを目的に、グリーン・ライフ・ツアー（自然体験旅行）を実施している。ツアーにおいては、「訪れた地域の人たちとの交流」「参加者同士の交流」「家族との交流」の3つの交流を目的に、家族向けのファミリー企画と子どものみの参加ツアー「子ども自然体験村」を実施している。また、ツアーを実施した後は、参加者アンケートを実施し、体験プログラム、宿泊施設、応対、交流内容などについての改善点をまとめ次期のツアーに活かしている。

この10年間で16道県75市町村に3万人の参加があり、都市住民に対する農山漁村の魅力の情報発信、ツアー受け入れ地域の活性化に大きな貢献をしている点が評価された。

## オーライ ニッポン大賞

北海道北オホーツクの  
大自然で学ぶ会  
北海道 浜頓別町



本会は高齢化や後継者不足で過疎化が進む農山村地域の活性化と、「子供達を大自然の中で育てたい」という都市住民の要望を受け、山村留学の母体として1995年に住民の有志により立ち上げられた。留学制度は一家で移住してもらう「定住留学」、母親と児童が留学する「親子留学」、児童だけが農家などにホームステイする「児童留学」の3つを用意し、農家の有効活用や宅地の無償譲渡などを行い、町あげて留学を応援している。

このような地域ぐるみの積極的な協力体制により、この10年間に全国から33世帯、55名の児童を留学させ、うち6世帯が移住し、地域の活性化が図られている点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞

四賀村  
長野県 四賀村



四賀村は、本格的なクラインガルテン（潜在型市民農園）を計131区画（耕畜宿泊施設付き270～300㎡）有しており、日本の中山間地で最大級の規模を誇っている。数々の交流イベント等、四賀村民がボランティアで農園利用者（ガルテナー）の農作業の手伝いや相談を行う「田舎の親戚制度」や有機無農薬栽培の推進をはじめ、地域住民とガルテナーの交流活動が展開されている。クラインガルテンを通じて、都市住民に対して、真の癒しや豊かさを求めるスローライフを提案することを目的として、10年目を迎えた本年8月には、日本で初めて「国際クラインガルテンシンポジウム」を開催し、日本型クラインガルテンの発展方向を提案するなど、クラインガルテンの先進地としてリーダーシップを発揮している点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞

特定非営利活動法人  
白神自然学校一ツ森校  
青森県 鯉ヶ沢町



本校は、世界遺産である白神山地の自然に触れながら自然の大切さを知るという環境教育を目的として、平成15年に地元の小学校の廃校を活用した自然体験型学校を開設した。修学旅行生や首都圏などからの都市住民を対象に、単なる観光ではなく山・川・海の豊富な自然を活用して様々な体験や農産物等の販売、種林や間伐などを地元住民の協力を得ながら実施しており、交流人口の拡大とともに就労の場の創出が図られている。このように、世界遺産・白神山地の自然保護の取り組みに環境教育を結びつけた活動は、都市住民に留まらず、地域住民の自然との交わりを促進し、同時に、地域経済の活性化、地域振興につながる実績をあげている点が評価された。



# 16年度受賞紹介

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### まほろばの里農学校

山形県 高島町



平成2年に、農村と都市の交流と環境の調和により発足した「たかはた共生塾」が都市住民に農業・農村の理解を深めるため平成4年に開校した「まほろばの里農学校」は、毎年2回（6月と9月）に都市住民等を対象に農業・農村体験活動を行っている。現在では75人（40世帯）を超える町内移住者「新まほろば人」を生み出し、認定農業者（4名）や農家民宿を経営する者も現れるなど、交流を通じて地域の活性化に大きく寄与された点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### 高柳町

新潟県 高柳町



「じょんのび」（『ゆったり、のんびり』の章）をキーワードに、かやぶきの壁など受け入れ体制の整備も行いながら交流観光によるまちづくりを実現するため、地域の連携を重視した地域ぐるみの取り組みを町民と行政が一体になって取組み、その結果、平成8年13万人から平成15年24万人と交流人口が大幅に増加し、野草園遊所の開設など新たな活動が始まるなど、町の人材、自然、文化にわたる地域資源を活用する取組みが地域の活性化をもたらした点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### 東村

沖縄県 東村



行政と民間が一体となって地域活性化政策や地域資源の振起しを行い、交流型農村の基盤づくりや体験滞在型観光の受け皿組織（エコツーリズム協会、ブルーツーリズム協会、グリーン・ツーリズム協会）が、新たな雇用の場の創出にもつながっている。早稲田大学の環境文化体験ツアーや県内外のセカンドスクールを受け入れるなど体験学習を推進。都市と農山漁村のお互いの暮らしが豊かになる取組であり、地域の活性化に貢献している点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### よこはまホテル村

青森県 横浜町



ゲンジボタルが生息する北限地として、また横浜町の豊かな自然環境のシンボルとして「ホテル」を中心とした活動を実施。稲作や地引網体験の受入の他、ホテル大使の公募、イメージソングのCD化などユニークな活動も交え、年間を通じた各種イベントにより県内外からの来客が図られている。また東京都小金井市や神奈川県横浜市との交流も展開。本活動が町への経済効果や地域住民の生きがいづくりにつなげる点や、今後の展開にも意欲的である点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### 掛川市

静岡県 掛川市



昭和54年に全国に先駆け「生涯学習都市」を宣言し、市民一人ひとりが生涯学習につけていこうと生涯学習まちづくりを展開。そして、将来都市像・市民像を実現するため、「健康福祉、教育文化、環境資源、経済観光、建設防災、広域交流」という6分野をイニシャルKで「6K政策」として体系化し諸事業を柱に、都市と農村の共生対流を全面展開している。特に市民の力で新鮮緑の駅をつくり、地域において交流につなげた点を評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### 特定非営利活動法人 グラウンドワーク東海

愛知県 名古屋市



個人、団体、企業、行政と幅広い会員で構成され、住民・企業・行政のパートナーシップによる身近な環境活動の普及啓発活動や、岐阜、愛知、三重の東海3県で環境改善活動を実施する団体の支援を行っている。都市側と農山漁村側両方の会員に自然環境に関する呼びかけを行う事により、相互理解が生まれ往来者を増やすなどの実績により、グラウンドワーク活動の普及と実践活動は今後大いに期待できる活動として評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### 新宿区立市谷小学校PTA

東京都 新宿区



新宿区市谷小学校の教員が食文化の研究の一環で岩手県花巻町の「餅文化」に興味を持ち花巻町立全沢小学校を訪問したのをきっかけに、子供達に自然のすばらしさ、人の心の温かさに触れる事で豊かな人間を育てようと、両校の4、5年生児童及びPTA、教職員が春と夏の年2回お互いに東京と花巻町を行き来し、いろいろな体験やホームステイを通じ交流を深めている。受入地域や保護者・学校が一体となり継続的な交流活動として定着し、今年で17年目を迎え、その継続性の面からも評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞

### 西米良村

宮崎県 西米良村



基本コンセプトを「九州中央山地一ツ瀬川源流・生涯現役元気村【カリコボーズの体験村・米食の庄】」と設定し、村民が健康で長生きし、生涯現役元気暮らしづくりを目指し、これを具体的に推進する戦略プロジェクトとして「8つの庄づくり」（町づくり、健康づくり、河遊び、餅り餅、花づくり、川遊び、匠、交流滞在）を行っている。また全国的に有名な「西米良型ワーキングホリデー制度」と結びつける事により、更なる相乗効果で都市農村交流の展開が図られている点が評価された。

## ライフスタイル賞

ライフスタイル賞は、1ターン等により農山漁村において个性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している方について、広くその生き方を紹介し、今後農山漁村に住んでみたい、行ってみたいと思う方々への参考としていただくことを目的として表彰するもの。



## ライフスタイル賞

**徳永 巧**

岡山県 久世町 (居住年数25年)



大学卒業後、生まれ故郷に帰郷。その後自由な生活がしたいと、求めていた役場を退職し、専門技術である環境技術系のコンサルタントを開業。仕事を通じて野生生物保護やビオトープ再生、茅葺き家屋や歴史遺産の保存等英国のグラウンドワークトラストを参考に、地域のリーダーに呼びかけ「真庭遺産研究会」を立ち上げ、自然や歴史資源、古民家等を活用した農村観光やグリーン・ツーリズムを推進している。

また、農業法人を設立したり、田舎の田舎や閉鎖的な考えを打破すべく、「自然と共生」をテーマに都市農村交流や他地域農村との交流を推進している点が評価された。

## ライフスタイル賞

**赤間 真理子**

福島県 保原町 (居住年数14年)



平成元年、美しい自然に魅せられて東京から家族全員で移住。編集プロダクション純草原社の副業者として編集業務に携わる一方、平成18年1月にかつて地元の特産品だった森製品の専門店を開店。

移住後、毎年、都市住民を対象に「くだもの重ツアー」や都会のアーティストを地元と呼び「ふれあいコンサート」等を展開。地域においても編集のキャリアを活かし地元広報誌やイベントちらしの作成等のアドバイザー活動するなど、地域に溶け込み田舎と都市を結ぶ架け橋となる活動を実施している点が評価された。

## ライフスタイル賞

**野村 良子**

秋田県 能代市 (居住年数27年)



結婚を期に当地に移住し、農業に従事する傍ら、築50年の古民家を改修し農家レストラン・民宿を開業し、ここを拠点に特産品「松山そば」や農作業体験等を提供している。また能代市松山地区の自然や文化を活用したグリーン・ツーリズム活動を実施するため、市民7人で「松山グリーン・ツーリズム推進協議会」を設立し、会長に就任するなど、地域ぐるみのグリーン・ツーリズム活動に積極的に取り組み実践している点が評価された。

## ライフスタイル賞

**新谷 哲雄**

山口県 菊川町 (居住年数10年)



平成7年、阪神淡路大震災を契機に、かねてから考えていた田舎暮らしを実践するため、妻の故郷である菊川町へ移住。「NPO法人歌野の自然とふれあい会」を立ち上げ、山口大学工学部との共同作業により解体される築100年以上の茅葺き民家の再生保全に取組み、そこを「歌野清流庵」と名付けイベント等を通じて地産地消や農業体験による交流活動を展開している。移住10年という短期期間で地域に溶け込み、今後の活動の広がりにも期待がもてる点が評価された。

## ライフスタイル賞

**進士 徹**

福島県 飯川村 (居住年数16年)



わが子に安心・安全な農作物を食べさせたいとの願いから昭和63年31歳の時に、静岡県より移住し家族4人で山村生活をゼロからスタート。ねむの木学園の経験を生かし山村留学や自然体験学校「あぶくまエスエスネット」などを設立。自然体験を通しながら農山村の魅力を子どもから大人まで広げる交流活動を展開している。活動の幅に広がりもあり、地元住民、首都圏の若者と連携を図るなど「人を巻き込む力」が素晴らしい点が評価された。

## ライフスタイル賞

**青木 三郎**

沖縄県 石垣市 (居住年数6年)



これまでダイビングを通じて石垣島に度々訪れ、石垣島の海や自然、食、人々に魅了され、定年を期に60年住み慣れた埼玉県所沢市から移住。自家製野菜を使用しながら農家民宿を経営し、パッションフルーツの栽培、趣味の陶芸は解禁するまでに至る。また地区の行事には積極的に参加するなど地域に溶け込んだ新しいライフスタイルを実践している点は大変魅力的であり、これからの高齢化社会での生き方として参考になる点が評価された。

# 15年度受賞紹介

## オーライ/ニッポン大賞 グランプリ 内閣総理大臣賞

## 飯田市 長野県飯田市



周辺の町村、民間団体とともに、体験型観光専門の第3セクターである（株）南信州観光公社を立ち上げ、400戸以上の農家の協力を得て、年間220校に及び小・中・高校の修学旅行を受け入れ、体験学習の普及推進に大きく寄与している。農業体験は、生徒が数分ずつ分かれて宿泊した農家の日常の農作業に加わって行うという本物志向。体験メニューも年間を通じて100以上のプログラムが用意されており、大変充実している。

また、全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、年間200名を超える人々が訪れる中で、地域で活躍するインストラクターが約300名も育ち、体験受け入れ農家数も100戸になるなど、地元住民や参加者にとっては生きがいに繋がっている活動となっている。

都市と農山村のお互いの暮らしが豊かになる取り組みであり、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている点が高く評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 武蔵野市教育委員会 東京都武蔵野市

## オーライ/ニッポン大賞 石河 智舒 栃木県茂木町

武蔵野市は小学5年生と中学1年生全員を対象として、1週間程度、農山村に滞在して農作業の体験学習を行う長期滞在型のセカンドスクールを全国に先駆けて実施している。子供たちの自然や農山村の人々とのふれあいを通じた経験は大きな教育的な成果をあげており、その交流がセカンドスクール終了後も継続している。

また、セカンドスクールは希望者を対象として行うのではなく、教育プログラムとして参加は義務と位置付けるとともに、学校教育の中で長期宿泊体験教育を行うための解決すべき課題や課題を明らかにし、学校、教育委員会、受入先の三者が試行錯誤しながら解決してきている。その結果、セカンドスクールを実施するシステムも確立し、生徒を送り出す側として極めて優れた取り組みとなっており、大きな広がりをもって展開している点が高く評価された。

石河氏は1980年代までは薪炭や葉タバコの生産が盛んだった栃木県茂木町元古沢地区がだんだんとその生産も衰退し、働き手が外に出ていってしまう状況を深刻に受け止め、ゆずり番目した地域興しに取り組み、地域住民の合意形成による地域ぐるみの活動として農家13戸全戸による「八旗ゆず生産組合」を発足させた。平成5年にはゆずのオーナー制度を開始し、現在では600人を超え、1万本のユズが植えられ、年間2万人の観光客が集まるようになった。また、「ゆずの里かおり村」を開業し、都市住民を「かおり村の村民」とするなど継続的に交流できるシステムを作り出した。

この取り組みにおける石河氏のアイデアと行動力は大きく、地域づくりのリーダーとして今の中山間地域に最も求められる人材である点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 九州ツーリズム大学 熊本県小国町

## オーライ/ニッポン大賞 たざわこ芸術村・わらび座 秋田県田代町

「九州ツーリズム大学」は、農山村でのツーリズム実践者やコーディネーター的人材の育成などを目的に多様な講師陣により、基礎から実践まで広くプログラムを実施している。その活動は全国に先駆け、より質の高いグリーン・ツーリズムを求め、ユニークな充実したプログラムに基づくグリーン・ツーリズムの担い手の人材育成を実施している。このことは全国的に見て模範的な活動として知られているところである。開校から7年、受講生は昨年度で900名を超え、この取り組みはバイオニア的存在であり、全国的に波及し各地でツーリズム大学の開校が相次いでいる。また、フィールドワークの講師として地域住民が参加するなどこの取り組みに地域住民が一体となって取り組んでいる点が評価された。

昭和52年から農業体験学習旅行を受入れて以来、26年間にわたり継続して実施している。専門のコーディネーターを配置するなど、近隣の農家と綿密な連携により、関東、関西の中学・高校など年平均10校1500人の生徒を、秋田県仙北郡、平鹿郡、河辺郡、北秋田郡にまたがる20市町村の農家300軒ほどで広域的に受入れている。この取り組みを通じて、農家の方々の温かいふれあいを経験するなど長年都市と農村の橋渡しに貢献しており、また、都会の子供たちと受け入れ農家の双方に活力や様々な効果が生まれてきている点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 農談 伊賀の里モクモク手づくりファーム 三重県伊賀市

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 飯山市グリーン・ツーリズム推進協議会 長野県飯山市

農業生産から交流まで一貫した取り組みであり、平成7年以降、農業を感じてもらい、生産者と消費者、地域住民の触れ合う場としてモクモク手づくりファームを創設。その後、「農業」、「自然」、「手づくり」のテーマパークとして活動を展開し、「おいしさと安心の両立」したもののづくりにモットーに、ハム・ソーセージ等の生産・加工・販売まで行っており、年間50万人の来園者がある。

また、「手づくり体験教室」を通じて都市住民との直接交流が進む中で、高品質な商品開発と近隣市へのテナントレストランの展開、全国的3万世帯の会員組織など積極的な経営戦略へ繋がっており、安定した事業基盤を築き上げている点が評価された。

スキー民宿から農業・農村生活体験型民宿に取り組み、平成8年に「なべくら温泉・森の家」を設立し、地元の豊かな資源を活用した体験プログラムの開発や資源の発信を行い、180名の市民によるインストラクターにより、都市住民のニーズにマッチした体験プログラムを用意し、リピーターも多く、グリーン・ツーリズムの普及推進に寄与している点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 色川地域振興推進委員会 三重県色川町

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 上田西百姓王国 群馬県上田町

高校を利用した「町立難ぶささと塾」を拠点に、新規定住者の受け入れを推進。昭和52年から44世帯121人が新規定住し、地域全人口の2.5%を超えている。その結果、在校児童生徒28名のうち8割が新規定住者の子供である。新規参加者が4分の1を超える取り組みは全国的に見てもとてもユニークな取り組みであり、定住促進を目指す他の地域の参考になる点が評価された。

加茂川町の「全町公園化構想」をきっかけに上田西地区の住民会が百姓王国を建設した。百姓王国は、農作物毎に大臣を任命し、大臣の役割総覧看板を設置したり農業体験修学旅行の受け入れを行ったり、郷土料理の提供、250本の桜をボランティアで植樹するなど環境美化に取り組んでいる。住民が「遊び心」を活かして楽しんで活動しており、地域への発展に繋がるといえる点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 特定非営利活動法人 エコ・ビジョン沖縄 沖縄県那覇市

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 特定非営利活動法人 里山倶楽部 大分県大分市

持続的で環境調和的な再生産の場づくりを固めるため、地域における生ゴミの減量化と、生ゴミの飼料化・堆肥化を都市部周辺の農家と連携し循環利用を促進している。生ゴミ排出業者、回収業者、飼料化業者、堆肥製造業者、養豚農家、販売業者、行政などの間のコーディネート役を担い、現在は月5.8トンもの生ゴミが資源化されるなど、今後の環境保全、循環型社会を創造する上で重要な取り組みである点が評価された。

里山文化の継承と都市と農村住民の交流を目指し「里山の学校」を開校、農林業の作業や技術、伝統行事を教えており、平成13年からこれまでに69名が参加している。里山経済の活性化と農的暮らしの復興を求め、地域住民との交流も積極的に進めており、都市側から積極的に農山村への交流を仕掛けている取り組みである点が評価された。

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 特定非営利活動法人 ホールアース研究所 福岡県大牟田市

## オーライ/ニッポン大賞 審査委員会長賞 関田 秀則 山口県萩市

昭和57年より負傷で適切な農山村での自然体験活動の提供や調査研究、人材育成などを自治体と連携し企画・運営を行っている。自然体験教室は年間6万人参加、小・中・高校の修学旅行向けの教室は年間400校、4万人以上が参加している。国内最大の自然学校であり自然環境や農山村体験の専門家集団として、その実績が高く評価された。

関田氏の所有する山林を一般に開放して、NPO法人里山ネットワーク、里山マイスター、林業指導士の専門性を生かし、薪の手入れ、キノコ狩り、炭焼き等の森林体験の場を提供している。また、専門家による森林技術の指導も行き、年間3000人の参加者を得ている。森で何をするかは体験者の自由であり、このようなスタイルは従来の体験型から一歩進んだ形である点が評価された。

# 15年度受賞紹介

**審査委員長賞 安心院町** 大分県安心院町

「安心院方式」といわれる会員制農家民治のシステムを築きあげ、大分県下にその取り組みが広がっている。平成14年度の実績では一般民泊者2650人、学校8校345人に上る。また、従来の時間割の体験プログラムではなく、ふれあいを重視した家族の一員として農村の生活そのものを体験するプログラムを実施し、住民主体でグリーン・ツーリズムのまちづくりを推進するなど、農村らしさを大切にしながら積極的な取り組みを行い、他の地域に広く波及している点が評価された。

**審査委員長賞 特定非営利活動法人 大山千枚田保存会** 千葉県山根町

平成7年に大山千枚田保存会が設立、平成12年から佃田オーナー制度を実施し、15年度138組を受入れている。また、大豆畑トラストは、15年度55口を受入れているなど、東京を含む大都市圏に近いという条件を生かし、都市住民との交流を通じて美しい佃田をしっかりと守っている。また、この交流活動を通じ、地元の人々に誇りと自信が生まれている点が評価された。

**審査委員長賞 特定非営利活動法人 黒潮実感センター** 高知県高知市

「黒潮」をキャッチフレーズに自然を実感する取り組み（海洋セミナー、海の環境学習、体験実感学習など）や、自然と暮らしを学ぶ取り組み（調査や保全活動、自然を生かす暮らしづくりなど）を実施している。海洋資源を生かした体験学習は、県内外の学生やダイバー、観光客を呼び、地元住民と交流することで自分の地域の価値を見出しており、環境保全への取り組みも活発化し、地域活性化に寄与している点が評価された。

**審査委員長賞 白山連峰合衆国事務局** 石川県能登町

平成元年に1市5町による観光共同体として設立。従来の観光から、地域の四季折々の資源を活用した山歩き、歴史、文化探訪などのメニューを企画開発し、交流を推進している。3年前には合衆国議長の長である大塚博康を民間から受入れるなどユニークで積極的な活動を行っている点が評価された。

**審査委員長賞 兵庫県子ども自然村** 兵庫県神戸市

青年ボランティアや地元の方々による手づくり村で、稲刈り、地元の祭り、農作業体験、生活体験などの交流を促している。都会からの送り出しはとても難しい中でよく活動している事例である。受入れる側の市町村にも都市側にもこのような子ども会の体験活動があることをもっと伝え、うまく連携していけば都市と農山村の共生・対話がさらに推進すると考えられる点が評価された。

**審査委員長賞 水士里ネット立梅用水** 三重県鈴鹿市

農業用水施設の近代化による農家の農業用水離れを解消するために、都市住民と地域住民で農業用水の保全活動をスタートし、美しい暮らしづくりや都市農村交流を推進している。あじさいの植栽、休耕田を利用したメダカ飼育など、身近な農業用水を活用し、子どもたちや都市住民に水の大切さや自然環境の理解を深めている取り組みが評価された。

**審査委員長賞 有限会社とかち自然体験学校** 北海道釧路市

北海道釧路山地区、十勝地区において有限会社とかち自然学校が行っている活動は、小中高校の修学旅行、首都圏や地域の子どもたちを中心とした人々の各種自然体験。また、地域の農家や酪農家と連携した農林漁業体験を受け入れている滞在型観光体験ビジネスであるが、自然及び一次産業と結びつけた民間によるユニークな新しいタイプのビジネスである点が注目され、都市農村交流の推進、積極的に地域活性化に寄与している点が評価された。

**ライフスタイル賞 門田 進** 埼玉県大野町

自分のライフスタイルには欠かせない、ログハウス、薪ストーブ暮らし、ダッチ・オーブンのある暮らしを実現するために、また、仕事の診療放射線技師を生かした僻地医療、福祉にも貢献していきたいと8年前に現住所へ移住した。身に付けた技術を生かした定職を持ち、趣味と結びつけたカントリーライフを満喫、HPでもハンドルネーム田舎時遊人という名でその魅力的な自分のカントリーライフの情報をお洒落に発信しており、これから田舎暮らしを考えている人の参考になる点が評価された。



**ライフスタイル賞 石黒 宏** 東京都江崎市

東京生まれの山形育ち。東京でのサラリーマン、脱サラ・外国（ブラジル）生活などを体験し、昭和50年に農業新規参入者として五島列島の江崎市に約2haの土地を入手し定住。20年前に日産製菓を仕掛けるなど、長年この市の世帯役に務めている。地域に受け込み、地産地消活動の世帯役を担うといったライフスタイルは、田舎暮らしを目標している人々の参考になり、また、広い視野での生き方は、青少年に対し生きる道が多様であることを示すモデルになるという点が評価された。

**ライフスタイル賞 長崎 喜一** 岡山県新見市

専業主婦として在籍していた平成6年から杉の間伐材で手づくりの丸太小屋を建設し、集まってきた地元仲間たちと平成8年に地域活性化グループ「やまびこの郷」を結成。その後、紙すき小屋、白炭窯等、里山の生活技術を伝承する匠の小屋を建設。炭焼きや紙すきなどのもの作りが体験できる活動を行っており、現在では県内外から年間約2000名が訪れるようになった。活動をここまで発展させたのは、長崎氏の信念と熱意に多くの人々が集まり、地域住民とともに取り組んだ成果であり、また、定年退職後の生かす方の一つとして参考になるという点が評価された。

**ライフスタイル賞 曾根原 久司** 山梨県白旗町

東京で銀行や企業等のコンサルタントを行っていたが、バブル経済の崩壊をきっかけに、骨太の地域社会構築のモデルを作るべく山梨へ移住。遊休農地を人力で開墾し、最終的には2haの農地で自給を基本とした生活を実践。趣味の音楽を生かした地域での文化活動は地域活性化に大きく貢献している。また、地域に多かった定住者と地元住民の接点を探り、自ら調整役として積極的に活動している。自給の生活をベースに自分の趣味や特技を伸ばすライフスタイルを実現しながらも、地域社会に受け込む努力をしている点が評価された。

**ライフスタイル賞 畠山 芳子** 岡山県真庭市

東京都武蔵野市の市議会議員をしていた畠山さんは、武蔵野市との姉妹都市提携の30年間にわたる交流をきっかけに利賀村へ魅力を感じ、60歳を機に移住した。現在は、交流ボランティアとして、毎年武蔵野市から受入れるセカンドスクールの子どもたちの世話や、村を訪れた人達の案内などを行っている。移住先でも、これまでの経験を生かした活動により社会貢献に繋がり、都市と農山村両者のコミュニケーションを高めている。これからの女性の新しい生き方のモデルになりうる点が評価された。

**ライフスタイル賞 中島 健介** 高知県高知市

元々農業を営んでいたが、平成8年に農家民泊「大道谷の里」を登録し立ち上げる。口コミで都会からのお客さんも多く、現在は地域の仲間たちと力を合わせて福岡市、北九州などから「子供ファームステイ」を受入れている。また、趣味である音楽を生かし楽隊バンドを結成し、ボランティアで老人ホームに出掛けたり、地域でコンサート活動も行っている。自ら田舎暮らしを楽しみ、そしてその楽しさを積極的に情報発信している点が評価された。

## オーライ! ニッポン大賞 審査委員

|    |        |                                |
|----|--------|--------------------------------|
| 会長 | 川勝 平太  | 国際日本文化研究センター教授、オーライ! ニッポン会議副代表 |
|    | 井上 和衛  | 全国グリーンツーリズム協議会会長(明治大学名誉教授)     |
|    | 岡島 成行  | NPO法人自然体験活動推進協議会代表理事           |
|    | 金子 賢太郎 | (社)日本旅行業協会理事長                  |
|    | 長岡 杏子  | TBSアナウンサー                      |
|    | 平野 啓子  | 語り部、武蔵野大学非常勤講師、オーライ! ニッポン会議副代表 |
|    | 松本 零士  | (社)中央青少年団体連絡協議会会長              |
|    | 村田 昭夫  | 毎日新聞社デジタルメディア局次長               |
|    | 元石 一雄  | (財)社会経済生産性本部 常務理事              |

## オーライ! ニッポン大賞 概要

### ●趣 旨

都市と農山漁村の共生・対流に関する活動を行っており、交流の拡大、活性化に寄与した団体・個人や、都市と農山漁村双方の生活、文化を楽しむライフスタイルを実践している個人を表彰し、その活動を広くPRすることで農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルの普及推進を図ることを目的としています。

### ●表彰対象・審査基準

#### オーライ! ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等について優れた貢献のあった団体もしくは個人。

#### (1) 表彰の種類

内閣総理大臣賞(グランプリ)\*下記「オーライ! ニッポン大賞」の中から1件グランプリを選定

オーライ! ニッポン大賞 6件

審査委員会長賞 数件

#### (2) 審査の基準

- ア 農山漁村地域を舞台とした新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること。
- イ 地域の個性を生かした取り組みであること。
- ウ 農山漁村地域を活性化する効果があること。
- エ 都市側、農山漁村側双方の住民の参加を促進する取り組みであること。
- オ 長期的な取り組みの実績があること。
- カ 効果が持続して発現すると見込まれること。
- キ 他の地域における応用性に富んでいること。

#### ライフスタイル賞

1ターンの等により農山漁村において個性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している個人。

#### (1) 表彰の種類

ライフスタイル賞 数件

#### (2) 審査の基準

- ア 農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルを実践していること。
- イ 個性的で魅力のある活動であること。
- ウ 新たなライフスタイルの実践に継続性があること。
- エ 新たなライフスタイルが他の人の参考となるものであること。

〈主催〉

オーライ!ニッポン会議  
農林水産省  
(財)都市農山漁村交流活性化機構

〈共催〉

毎日新聞社

〈後援〉

総務省  
文部科学省  
厚生労働省  
経済産業省  
国土交通省  
環境省

**オーライ!ニッポン大賞 事務局**

(財)都市農山漁村交流活性化機構

〒103-0028 中央区八重洲1-5-3 不二ビル8階

TEL 03-3548-2711 FAX 03-3276-6771 ホームページ <http://www.kouryu.or.jp>

**R100**  
RURAL REVIVAL INITIATIVE